

南竜ヶ馬場周辺の 自然観察

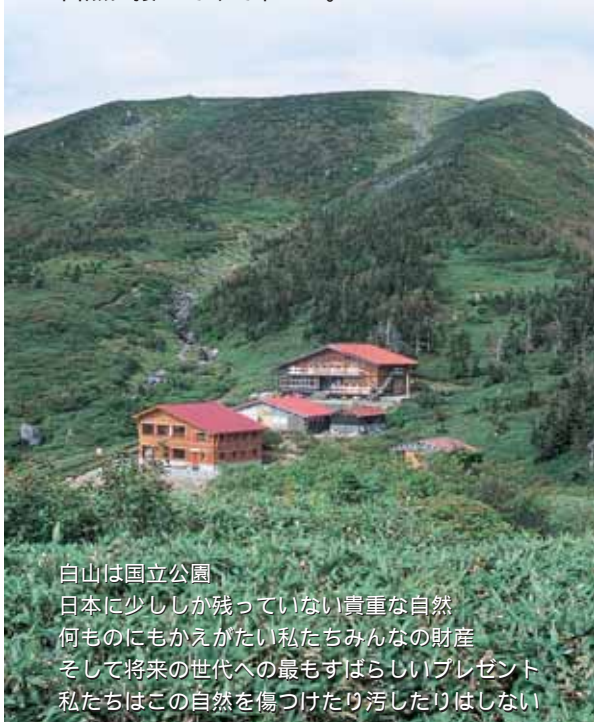


ちょっぴり深く白山の自然を...



ちょっぴり深く白山の自然を 味わいたいと感じた皆さんへ...

南竜ヶ馬場とその周辺は、静けさと優しい
景観という白山らしさを、他のどこよりも
豊かに持っている地域といえるでしょう。
このテキストを開いて、ゆっくりと本物の
自然に接してみてください。



白山は国立公園
日本に少ししか残っていない貴重な自然
何ものにもかえがたい私たちみんなの財産
そして将来の世代への最もすばらしいプレゼント
私たちはこの自然を傷つけたり汚したりはしない

自然解説員といっしょに歩きませんか

夏期、室堂と南竜ヶ馬場に自然解説員が
常駐しています。

いっしょに自然観察をどうぞ.....

お気軽に声をかけて下さい。



南竜ヶ馬場

多様な環境 - まわりを見まわしてみよう

南竜ヶ馬場は白山御前峰（2,702m）と別山（2,399m）の鞍部にあたり、標高2,050～2,100mの南西に開けた平坦地です。中央を柳谷が流れ、湿性の高山植物群落やオオシラビソ林などが見られ、変化に富んだ景観をつくりだしています。

溶岩がつくった平坦地



南竜ヶ馬場は、室堂平などと同様に現在の白山山頂から噴出した火山岩（主に溶岩流）によって形成された平坦地です。時代が新しいため、侵食が少なく平坦な面が残っています。

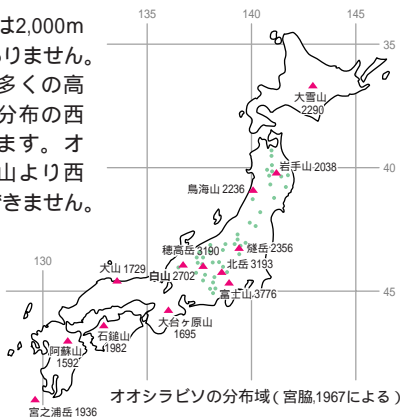
オオシラビソ林

白山の亜高山帯を代表する森林はオオシラビソ林とダケカンバ林です。積雪量の多い場所にダケカンバ林が、比較的少ない場所にオオシラビソ林が成立し、森林の発達に積雪量の多少が強く影響しています。



濃い緑がオオシラビソです。尾根を中心に成立しています。

白山より西には2,000mを超える高山はありません。そのため白山は多くの高山植物にとって分布の西限地となっています。オオシラビソも白山より西では見ることはできません。



ニッコウキスゲ

(ユリ科)

高さ50～80cm。7～8月、6枚の花びらをもつ長さ10cm位の花を次々と開く。一日花で、開いた花は夕方にはしぼんでしまう。別名ゼンテイカ。



クルマユリ

(ユリ科)

高さ30～70cm。花は7月下旬～8月中旬。花びらは6枚でそりかえる。花の径は5～6cmで斜め下向きに咲く。葉は車輪状に1～3段につく。



イブキトラノオ

(タデ科)

高さ50～80cm。花は7月中旬～8月。茎の先に長さ3～8cmの円柱形の花穂をつける。密集する小花は白色に近い淡紅色で、長さ3～4mm。



コバイケイソウ

(ユリ科)

高さ50～90cm。7月中旬～8月上旬、太く長い花穂に、径1cm位の白緑色の花を密につける。茎を抱くように大きな葉が互生する。根は有毒。



ハクサンチドリ

(ラン科)

高さ10～40cm。6～8月に数個～10数個の紫紅色の花をつける。花の形が羽を広げたチドリの姿に似ているところから名付けられた。



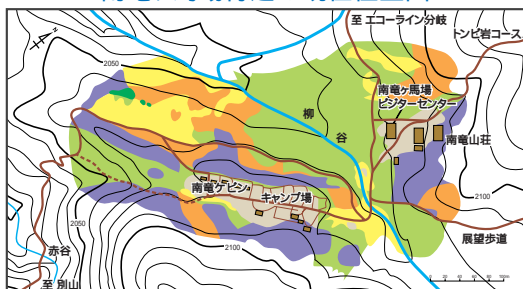
ちょっと散策を...







南竜山荘を出て、雪どけ水を集めて流れる柳谷を渡りましょう。7月中なら、谷沿いにリュウキンカの花が見られます。別山方向へ10分程歩くと、小さな池や岩が散在し、これらをイワイチョウやハクサンコザクラを主とする湿性の高山植物群落がとりかこみ、庭園のような景色が楽しめます。

ここから15分程下がると赤谷で、ハコネサンショウウオを見つけることもできます。



南竜ヶ馬場付近の現在植生図



- | | | |
|--|--|---|
|  オオシラビソ林 |  ササ草原
ニッコウキスゲ群落 |  建造物 |
|  ハイマツ低木林 |  湿性植物群落
(イワイチョウ、ハクサンコザクラ、
ハクサンオオバコなど) |  裸地 |
|  ウラジロナナカマド・
ミヤマハンノキ林 |  流水 | |

ハコネサンショウウオ (サンショウウオ科)

全長10～19cm。溪流にすむ。尾は長く全長の1/2以上で、眼が突き出ている。幼生期は約2年間と長い。幼生はエラと黒い爪をもち、主にカワゲラ、トビゲラ類を食べる。



ごみは持ち帰ろう

- ゴミは美観だけでなく生態系もそこなう -

ハクサンコザクラ

(サクラソウ科)

高さ10cm位。花は7～8月中旬。花の径は2cm位で花びらは深く5裂し、さらに各片が2裂する。名は白山で最初に見つけられたから。湿潤地に群生。



クロユリ

(ユリ科)

高さ10～40cm。花は長さ2～3cm。7月～8月上旬、茎頂に1～2花を斜め下向きにつける。花びらは6枚。葉は輪生。石川県の「郷土の花」。



イワイチョウ

(ミツガシワ科)

高さ20～40cm。花は7～8月。花は深く5裂して、ふちはちじれ、中央には縦にひだが走る。葉は腎臓形で光沢がある。湿潤地に群生。



ハクサンオオバコ

(オオバコ科)

高さ10cm位。花は7～8月。花茎の上部に10～20の花をまばらに穂状につける。4本の白く長いおしべがとび出す。南竜ヶ馬場周辺には多い。



リュウキンカ

(キンポウゲ科)

高さ50cm位。花は6～7月。花茎2～3cmで、ろう細工のような光沢がある。花弁状に見えるのはがく。湿地や流れの中に群生する。

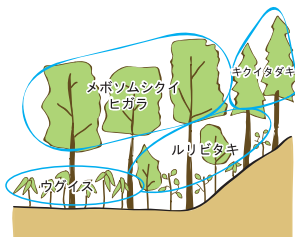


耳をすまして...

鳥の声が聞こえてきましたか？

注意深く聞きわけてみましょう。何種類の声が聞こえますか？ チョリ、チョリ、チョリ、チョリという声は聞こえませんか？

運よく動物に出会ったら、そっと静かに、そして、注意深く観察しましょう。



鳥たちの住みわけ

亜高山帯の林で見られる主な鳥の住みわけを図に示しました。同じ林でも樹幹部やブッシュ、その中間層などをそれぞれの種類ごとにわけあって住んでいます。

メボソムシクイ

(ヒタキ科)

スズメより少し小さい。亜高山帯を代表する鳥。チョリ、チョリ、チョリ、チョリと4拍子に大きな声でさえずる。夏鳥。



ルリビタキ

(ヒタキ科)

スズメ大。亜高山帯で繁殖。高く澄んだ声でキョロキョロキョロリとさえずる。地なきはピッ、ピッ。雌は上面緑褐色。冬は平地、低山に住む。



ウグイス

(ヒタキ科)

スズメより大きい。平地から亜高山帯のササや低木のブッシュなどに生息。さえずりはホーホケキョで、地鳴きはチャッチャツ。冬は低地に移る。



トンビ岩コース

登山者が少なく静かなコース

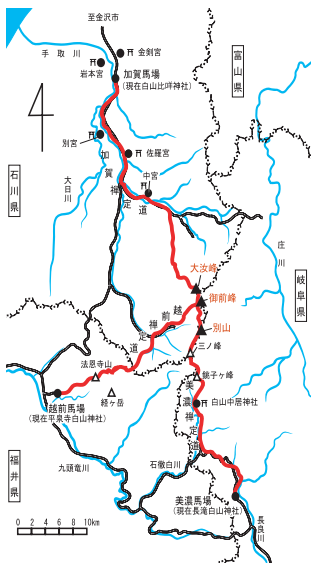
トンビ岩コースは南縦走路の一部で歴史の古い登山道です。雪は遅くまで残りますが、室堂と南竜ヶ馬場を結ぶ最短コースです。

登山者は少なく静かで、カヤクグリやルリビタキなどの鳥に出会うチャンスが多いコースです。

登山道の歴史

白山信仰の起源は非常に古く、奈良時代前期の養老元年(717年)に越前の僧、泰澄^{たいちよう}によって開山されたのが信仰登山の始まりとされています。

平安時代前期には加賀・越前・美濃の三国から図のような^{びんじょう}禅定道(当時は御前峰頂上へ登ることを禅定と称した)が開かれていたと伝えられています。このうち美濃禅定道は、千年以上の月日を経た今日も南縦走路〔石徹白 - 別山 - 南竜ヶ馬場 - (トンビ岩コース) - 室堂〕として比較的によく残されています。なお、加賀禅定道が昭和62年に復元されました。



白山の禅定道と馬場



ハイマツ林が発達している

ハイマツ(マツ科)は、五葉松で、主幹は地をはうか、斜上する。雪どけが比較的早く、石や砂の移動が少ないところに群生し、高山帯独特の景観をつくる。

雪渓上での行動は十分に注意して

- ちょっとした油断が事故やけがにつながる -

エコーライン

高山高茎草原と湿性お花畑を行くコース

エコーラインは、ニッコウキスゲやクルマユリ、ハクサンフウロなどの高山高茎草原と呼ばれるお花畑の中を登り、イワイチョウやコバイケイソウなどのやや湿性な高山植物群落の広がる弥陀ヶ原に至り、五葉坂の下で砂防新道と合流するコースです。

高山高茎草原

様々な環境条件の違いによってそこにみられる植物群落は異なったものとなります。高山高茎草原は多雪地や急斜面のため樹木が生育できない所に成立しているのです。

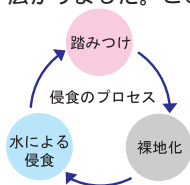
ホンシュウクモマヒナバッタ (バッタ科)

体長1.5～2cm。白山の亜高山帯～高山帯の草原に生息するバッタで、白山にのみ見られる種類です。弥陀ヶ原や南竜ヶ馬場に多い。



整備されたエコーライン

急な斜面をジグザグに登るエコーラインは、登山者が近道をして歩くため踏まれたり、雨水で深い溝ができていたりして、植物が枯れた裸地が広がりました。このような荒れ方が著しいところには石を張り、雨水が激しく流れるところには木製の土留めを施しました。登山道からの踏み外しが多い弥陀ヶ原では高山植物を傷めないよう、木道を設置しました。



登山道を踏みはずさないで...

ハクサンフウロ

(フウロソウ科)

高さ20～40cm。7月下旬～8月中旬、径2～3cmの5弁の花を上向きにつける。花色の濃淡はさまざま。葉は手のひら状に深く裂ける。



ミヤマキンポウゲ

(キンポウゲ科)

高さ20～30cm。花は7～8月上旬、径2～3cmで梅鉢形。花弁状の5枚のがくは光沢をもつ。葉は互生し、3つに深く裂ける。上部の葉は小さい。



シナノキンバイ

(キンポウゲ科)

高さ30～40cm。7月上旬～8月上旬、花径3～5cm。花弁状のがくが5枚つく。黄色で線形の小さな花弁は中央部に多数のおしべに混じる。



ヨツバシオガマ

(ゴマノハグサ)

高さ20～40cm。花は7～8月中旬、茎の上端に穂状につく。葉は羽状に深く切れ込み1～3段に3、4枚ずつ輪生する。



チングルマ

(バラ科)

高さ10cm位の小低木。花は7～8月中旬、径2～3cm。花がすむと、長い羽毛状の白毛のある実をつける。50年たって幹の直径はやっと4mm位。



展望歩道

展望と花が楽しめるコース

展望歩道は、立山や槍ヶ岳・穂高連峰などのアルプス連峰の眺めがよく、眼下には白水湖とすばらしい景観を楽しめるコースです。高山植物の種類も多く、オオシラビソ林の中を通る部分もあり変化に富んでいます。また、展望台（約1時間）まで登れば、御来光を見ることがもできます。

オオシラビソの風衝樹形^{ふうしょう}

強い冬の風によってオオシラビソが、風になびく旗ざおのような形になっています。これを風衝樹形といいます。これによって冬の主な風向きと、積雪量を読み取ることができます。植物は動物のように移動することはできませんが、長年の間にそれぞれの環境に応じた形に変化するのです。



守ろう！白山の高山帯

白山は北アルプス連峰から、70km以上も離れています。この隔たりによって白山の高山帯に生きる動植物は島状に隔離された分布となっています。相互の交流はほとんど不可能で、一度種が絶えてしまうと回復することのできない大切な自然です。

広がる北アルプス連峰の大パノラマ

剣立	槍	穂	乗	御
	ヶ	高	鞍	嶽
岳山	岳	連	岳	山
		峰		



目も耳もフルに活躍しよう
白山の短い夏 - ここは広大な自然の教室 -

タカネナデシコ

(ナデシコ科)

高さ20～30cm。7月下旬～8月中旬、花の茎は4cm位。葉は長い線形で対生する。カワラナデシコの高山型の変種で、岩礫地に生える。



カライトソウ

(バラ科)

高さ30～100cm。花は8月。花穂は長さ8cm位で首をうなだれる。穂の先端部から開花して、順に根もとへ咲き進む。葉の裏は白っぽい。



タカネマツムシソウ

(マツムシソウ科)

高さ20～30cm。8月に長い柄の先に径3～4cmの花をつける。外周の花は3～5裂し大きく、中心部の花は管状である。葉は対生し羽状にさける。



ゴゼンタチバナ

(ミズキ科)

高さ10cm位。葉は4～6枚が輪生状につく。花は7月、葉が6枚の株につく。花弁状のものは苞。果実は赤色。ゴゼンは白山の御前峰の意とされる。



イワギキョウ

(キキョウ科)

高さ10cm位。花は7月下旬～8月、斜め上向きに咲く。長さ2～2.5cmの鐘形の花で上部は浅く5つに裂ける。がくも5裂して糸のように細い。



別山

快適な稜線歩き - 多彩な花とすばらしい展望

別山は標高2,399mで、白山から南に連なる油坂頭・御舎利山・別山・三ノ峰を結ぶ山系の主峰です。南竜ヶ馬場から別山へのコースは、多様で豊富な高山植物とすばらしい展望の快適な稜線歩きが楽しめます。御舎利山付近で別山・市ノ瀬道が分岐し、このコースではチブリ尾根のすぐれたブナ原生林が楽しめます。



稜線沿いのお花畑



残雪の別山

別山は一億数千万年前の堆積岩からなる

白山主峰付近は白山火山が噴出した火山岩におおわれていますが、別山山塊は一億数千万年前の手取層群と呼ばれている堆積岩からなっています。

この時代、日本海はなく、白山地域は大きな大陸の一部で、その大陸の東のふちに位置していました。当時の河川や湖、沼などに砂や泥、礫などが堆積してできた地層が手取層群で、山麓のこの地層から恐竜化石が発見されています。



別山頂上からの白山主峰群

白山の主峰群と、ゆるやかな弥陀ヶ原のスロープ、そして小さくぼつんと室堂が見え、すばらしい眺めです。頂上の祠は、白山開山の僧、泰澄がここで聖観音の現身ほんごらに会ったとされ、聖観音が安置されていました。

天候には十分気をつけて、また、
時間に十分余裕をもって行動しよう。

アキアカネ

(トンボ科)

低地の水田などで発生し、夏には山地～高山帯に上がり避暑する。秋には赤く色づいて再び低地に戻る。雪渓上では死体を見ることが多い。



ベニヒカゲ

(ジャノメチョウ科)

亜高山～高山帯の代表的なチョウ。モンシロチョウより少し小さい。8月中旬～9月初旬頃に見られる。白山は分布の西限。食草はスゲ類。



アサギマダラ

(マダラチョウ科)

夏の間、山地～高山帯でフワリフワリと舞うように飛ぶ様子が見られる。渡りをするチョウで、暖かくなると南からやってきて、寒くなると南へ帰っていく。



クロサンショウウオ

(サンショウウオ科)

全長13～18cm。平地～高山帯までみられる。登山道沿いの水溜りで、卵のうや幼生が見られる。幼生はエラ呼吸し、成体は肺呼吸で地上生活をする。



晴れた日は上空を見上げてみよう

アマツバメやイツツバメが風をきって飛びまわっていませんか？
両種とも夏鳥として渡来し、急な崖地などで繁殖します。



ハクサンイチゲ

(キンポウゲ科)

高さ20～30cm。花は7月中旬～8月上旬。径3cm位の白花を4～5花ずつまとめてつける。5～7枚の花弁状のものはがく。葉は手のひら状に裂ける。



タテヤマウツボグサ

(シソ科)

高さ20～50cm。花は7～8月上旬。短くつまった花穂に長さ3cm位の花を多数直立させてつける。葉は厚く長い卵形で対生する。



ウサギギク

(キク科)

高さ20～30cm、花は7月下旬～8月。茎頂に径4～5cmの花を1個つける。へら形の毛の多い葉が対生。この葉をウサギの耳にみたて名付けた。



ハクサンタイゲキ

(トウダイグサ科)

高さ40～80cm。花は7～8月。葉は薄くて互生するが、茎の先端では輪生する。有毒植物。和名にハクサンと名のつく植物は約20種ある。



エゾシオガマ

(ゴマノハグサ科)

高さ30～50cm。7月中旬～8月、黄白色で長さ1.5cm位の花をつける。葉は長い三角形で縁のギザギザが目立つ。



写真 宮崎光二氏・石川県環境安全部自然保護課
・石川県白山自然保護センター

編集 / 石川県白山自然保護センター

〒920-2326 石川県白山市木滑又4

TEL.0761-95-5321 FAX.0761-95-5323

E-mail hakusan@pref.ishikawa.lg.jp

URL <http://www.pref.ishikawa.jp/hakusan/index.htm>

発行 / 石川県・白山市

2008.3 (2005.2. 15,000を修正)